

森を守ることは私たちの未来を守ること

株式会社モリアゲ 代表取締役 長野麻子

林野庁で芽生えた森への思いを抑えきれず早期退職し(株)モリアゲを創業して3年。「森を想う人を森林率と同じ7割にする」ことを目指して全国の森を巡っている。気候変動や生物多様性の損失が深刻化する今、私たちが目指すべき未来は「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」「ネイチャーポジティブ」「ウェルビーイング」が統合的に実現される社会であり、森林はその基盤となる。先進国第3位の森林率、世界第8位の人工林面積を誇る日本の森は、温暖化防止、災害防止、水源涵養、生物多様性保全など年間70兆円超の価値のある自然資本。この価値を将来世代につなぐため、森林への資金還元と応援の輪を広げている。

従来の木材生産中心の林業に加え、森林の多様な価値を活かす「森林業」を盛り上げ、森をあきらめない地域や森と関わりたい企業に伴走。その一環として企業が自分事として森に関わる「一社一山運動」を提唱。社有林活用、ネーミングライツ、企業版ふるさと納税、J-クレジット購入、森林研修など、企業のニーズと地域の森づくりを結びつける協働を後押ししている。弊社自身も長野県木島平村でのブナ林再生に参画し、企業や村民、姉妹都市の調布市民へと植樹の輪が広がっている。また、中京テレビ放送(株)は愛知の森をメディアとして活用する「GO GO GREENプロジェクト」を展開し、番組と連動してパートナー企業や視聴者を森へ誘う仕組みづくりを進めている。顧問を務める(公財)Save Earth Foundationでは会員企業向けに森との関わり

を考える森林アカデミーを開講し、各地で企業の森協定をコーディネート。陸前高田市の森づくり基金に既に7社が拠出し、陸前高田の森に毎年訪れる関係人口が生まれている。山形県金山町では「イヌワシ・クマタカの棲む森づくりプロジェクト」を開始し、金山町森林組合や環境省とともに、猛禽類を指標に林業と生物多様性保全を両立させ、伐採された地域材の付加価値向上に挑戦中である。

森と街をつなぐ鍵は「木のある暮らし」。NPOサウンドウッズの基礎講座を修了した木材コーディネーターとともに地域材利用を進め、森林活性化アドバイザーを務める岡崎市では市産材の利用促進や中間支援組織「(株)もりまち」による森林循環を応援している。「森の学び」として各種セミナーや企業研修の講師を務めるほか、人事院と国家公務員の森林研修も試行し、この国の未来を考えるための長期視点や自然との接点を提供している。

人口減少社会では、これまでの「個別最適」から、森を軸にサプライチェーンや流域、官民がつながる「全体最適」への転換が必要だ。「人間も自然の一部」という日本古来の自然観こそが地球の未来を救う。森を守ることは、国土や暮らしを守り、私たちの未来を守ること。森の無限の可能性を信じ、森と関わる具体的な活動を進める企業や地域をモリアゲ続けたい。

(ながの あさこ)